

東京社保協ニュース

東京社会保障推進協議会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-33-10
東京労働会館6F

TEL: 03-5395-3165

FAX: 03-3946-6823



東京社保協

検索



東京社保協 会長就任にあたって

今年度の社保協総会はコロナ感染症対応として議案・体制とも常任幹事会で書面承認と致しました。



東京社会保障推進協議会

新会長 吉田 章

このたび東京社会保障推進協議会会長を拝命させていただき、まことに光栄に存じます。現在、東京保険医協会の副会長を務める一方、普段は都内の内科診療所で診療に従事しております。

新型コロナウイルス流行による被害は医療ばかりか経済にも及び未曾有の危機を我が国そして世界中にもたらしています。

当初国は故意に検査を絞ったため、症状があっても診断が遅れその結果適切な医療を受けられず命を落とした方も続出しました。また、検査数は諸外国に比べ格段に少ない状態です。国は目詰まりが各所にあったと言い訳をしていますがいまだ解消していません。

経済への影響も甚大です。飲食店を始め、宿泊業、食品関連、アパレル業界等で倒産が続出しています。しかし持続化給付金他支援策も十分な額でない上に、執行率も低く、どこで目詰まりしているのか、必要などころに未だ届いていないのが現状です。

一方、コロナ禍は、政府の実像を浮き彫りにしています。現「安倍一強」政権は、安保法制、共謀罪等を、多くの国民の声を無視して強行してきました。また森友・加計学園事件、桜を見る会問題、明らかにおかしいことを政府は官僚機構を巻き込みながら誤魔化してきました。しかしここに来てこの異様な「一強」政権にもかげりが見え始めています。検事長定年延長問題、元法務大臣夫妻の逮捕等コロナ禍で現政権の本質があぶりだされ、国民の批判の声が

強くなっていなければもみ消されていたかもしれません。

ところで私の所属する東京保険医協会は医師の団体です。日頃の活動として医療全般のほか憲法「改悪」問題他政治的事項に関しても発言をしております。特に戦争につながる政策には強く反対してきました。対して、会員他から医師の団体は医療のことだけやるべきとの批判を浴びることもあります。しかしそうでしょうか？

われわれ医師には国民の健康を守るという使命があり、日々患者の健康管理に腐心しています。しかしいったん戦争になれば、かけがえのない“いのち”が簡単に失われ、その努力は一瞬にして瓦解してしまうのです。われわれが医療を本来の意味で続けられるのはあくまで平和だからであるのです。したがって、国民のいのちと健康を守り発展させていくという本来の医療を続けるためには、平和な環境を守ることが前提としてまず必要になります。

そう考えると医師の団体が戦争反対他の行動をすることは何の不思議もありません。むしろ必要不可欠ともいえるわけです。これを敷衍すると、例えば大工さんは、戦争で空襲を受ければ建てた家は一瞬で瓦解し、住人の生活も破壊されてしまいます。つまりどんな職業、団体でも戦争に通じるような政策には反対する権利とそして義務があると考えられるわけです。

コロナ禍の混乱に乗じて、憲法「改悪」や、マイナンバーで国民監視を強める不穏な動きも見られます。また経済状況は益々悪化し補正予算の効果も不透明な状況に加え、来襲必至とされるコロナ再流行に対する施策も不十分なまま国会は閉じられてしまいました。この政権にこの国を任せておいて良いのでしょうか。微力ながら皆様と共に頑張りますのでよろしくお願い申し上げます。

会長退任にあたって…思いやりのある社会に



前会長 須田 昭夫

安倍政権の特徴は、独裁といえどもまだ聞こえがいいほうで、その実態は国民を忘れた、政治の私物化です。まず手始めに、政治を監視するべきNHKの会長に、お友達を指名しました。言論の府であるマスコミ各社の代表には食事を奢り、政府の広告費を与えて手なづけました。モリ・カケ・サクラの不正は、身内とお友達を税金でオモテなした、ウラばかりの話です。人事権を握られた官僚によって、公文書の捏造、改ざん、隠ぺい、廃棄がくり返されました。政権の自己採点は、いつも「適切に行われており、問題ない」です。

黒子役を果たし、官邸の（国民の、ではない）守り神とまで呼ばれた財務省のS氏は、ご褒美としてこともあろうに、国税庁長官に栄転しました。税務申告する国民が、資料を黒塗りで提出するようになるのでは、と心配する声もありました。戦争が大好きなことで定評のあったお友達を、内閣法制局長官に就任させるや、閣議決定だけで、集団的自衛権の解釈をねじまげて、海外派兵を強行してしまいました。

大量の人と物資を動かして、巨大資本の利益を追求する社会では、安全と福祉は疎かにされます。昨年末に始まった、新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、多くの人々が余裕のない生活を送っていたことを明らかにしました。社会保障が疎かにされていたのです。非常事態宣言や外出自粛の要請によって、人々の消費活動が萎縮すると、非正規労働者、個人事業主、小規模経営者たちは、たちまち生活苦に陥りました。東京保険医協会が4月上旬に行ったアンケート調査によれば、3分の1の施設では、受診者数と診療報酬が50%以下になっていました。病院もコロナ対応の有無にかかわらず、巨額な減収となっています。医療機関の経営基盤は脆弱です。一刻も早い支援が必要ですが、政府は「補償と言う考えはない」と言いきっています。第1次補正予算には、一人10万円の定額給付金が決まりましたが、6月

中旬になってもまだ支給の途中です。給付には無関係なマイカードを普及させようとして、むりやりカードを使わせようとしたことが、混乱の原因でした。第2次補正予算には、持続化給付金（総額769億円、5月1日から受付）、が含まれましたが、電通、パソナ、大日本印刷（DNP）などが作るトンネル会社が業務を落札し、自分たちの利益の温床にしています。その後、3次下請けまでの組織が何度も委託を繰り返していますが、給付はなかなか進んでいません。家賃を補てんする家賃支援給付金（総額2兆円）は、支給事務などの委託費として、リクルート社に942億円を支払って契約することが、6月10日に発表されました。安倍総理は、国民の基本的な人権を保障するよりも、お友達の利益を保障することばかりに熱心です。どうしてこんな国になってしまったのでしょうか。国民自身が、血縁関係や利権に頼ってばかりいるからです。情けは人のためならず、といえます。思いやりのある社会にしてゆきましょう。

さて、私は会長として2017年5月より3年間、社会保障制度後退の流れに抗してみなさんと共に闘って参りました。コロナ禍は今後益々、社会保障を守り充実させてゆくことが必須であることを世界中の人々に再確認させました。私も引き続き、東京保険医協会の会長として人々の命にかかわる社会保障制度充実のためにも吉田新会長をはじめ東京社保協のみなさんと共に奮闘して参る決意です。ともに頑張りましょう！

都議会開会日行動

5月27日、第2回定例都議会開会日行動が行われ、コロナ対応として参加者人数も絞って、20団体32名が参加しました。これに合わせて緊急のコロナ対策を盛り込んだ都知事宛の個人請願389筆を提出しました。



各地域・団体の取り組み

国会署名提出行動

5月27日、中央社保協、認知症の人と家族の会、21老福連、年金者組合、全労連、全日本民医連、日本高齢期運動連絡会の7団体が主催して「25条署名」をはじめとする国会署名提出行動を行いました。今年はコロナ禍の中で規模と時間を縮小しての行動となりました。



今年の通常国会閉会に向けてこの日全国から集まった署名総数は、41万3,015筆で、東京社保協からもこの間に寄せられた署名（下表は東京社保協当日提出数）を立憲民主党、国民民主党、日本共産党、無所属の衆参国會議員に託しました。

東京社保協提出の署名タイトル	総合計	提出数
若い人も高齢者も安心できる年金制度を請願署名	2,047	275
75歳以上の医療費負担の原則2割化反対保険料引き下げを求める請願署名	18,958	580
75歳以上医療費窓口負担2割化に反対する請願署名		1,226
ケアプランの有料化などの制度見直しの中止、介護従事者の大幅な処遇改善、介護保険の抜本的改善を求める請願署名	290	151
介護保険制度の改善、介護従事者の処遇改善等を求める請願署名	32	32
安全・安心の医療・介護の実現と夜勤交替制労働の改善を求める国会請願署名	66	66
公立・公的424病院への「再検証」要請を撤回し、地域医療の拡充を求める署名	172	172
国の責任で社会保障制度の拡充を求める請願署名		1,102
国民負担増をストップし、国の責任で社会保障制度の拡充を求める請願署名		8,875
お金の心配なく、国の責任で、安心して暮らせる社会へ社会保障制度の充実を求める請願署名	76,864	2,910
お金の心配なく、国の責任で、安心して暮らせる社会に社会保障制度の充実を求める請願署名		55,269

渋谷社保協

5月21日に渋谷社保としてコロナウイルス感染から区民を守るために渋谷区独自の取り組み強化を求める「新型コロナウイルス感染拡大防止を強化し、医療・介護崩壊を防ぎ、区民のいのち・くらし・営業を守ることを求める」要請書を渋谷区長に提出をしました。要請には渋谷区企画・営業部広報コミュニケーション課の杉山課長が対応し、要請書を受け取りました。感染症の検査・受診・入院体制の強化、医療・介護現場の困難さ、自粛成果による区民の生活や営業が苦しい現状、自治体としてなんらかの支援をすることを求めました。回答は文書ですることになりました。

<渋谷社保協ニュースより>

新宿社保協

新宿区は第2回区議会定例会に、落合にある高齢者いこいの家「清風園」を廃止する条例案を出しました。高齢者いこいの家「清風園」は、地域のコミュニティを生む大切な施設で、清風園を廃止しないでほしいという1,903筆の署名が区議会に提出されています。6月12日昼には新宿区役所前で宣伝行動をおこない、「清風園を守る会」のメンバーとともに、国保料一律2万円引き下げを求める署名と高齢者いこいの家「清風園」を守る署名への協力を訴えました。その後、区議会福祉健康委員会がおこなわれ、30人近い区民が傍聴しました。

また区は、今定例会に、国から通達のあった国保の傷病手当金支給の条例改正案を提出していますが、区民が新型コロ



ナウイルス感染症対策で一人一人が努力をおこなっている中、感染症拡大防止の区独自の取組みは行おうとしていません。

新宿社保協は、5月29日に新宿区長宛に「新型コロナウイルスから区民の命と生活・営業を守るための要請書」を提出しており、今定例会には新型コロナウイルス感染症対策として、「コロナ危機打開、区民生活を守るために今年度、国保料を一律1人2万円引き下げを求める」陳情を提出しました。

<新宿社保協より>

後期高齢者医療保険 傷病手当実施

東京都高齢者医療広域連合が「新型コロナウイルス感染症に感染した被保険者に対する傷病手当金支給」実施を決め、6月5日よりホームページに申請書を掲載しました。東京社保協として広域連合に要望書を提出しており、対象が被用者に限られるなど不十分な点もありますが、要望の一部が実現しました。さらに保険料の減免なども求めていきましょう。

コロナ感染による国保の傷病手当やコロナ影響による国保料(税)・介護保険料の減免については、都内ほとんどの自治体が実施を決めています。保険料の減免は、直近3カ月の収入が昨年比で3割以上減少すると今年2月から来年3月末までの納付保険料が所得に応じて全額から2割の減免になります。傷病手当の給付や保険料(税)減免は、申請制なので、行政に制度の周知を徹底させるとともに該当者には申請手続きをするように呼びかけましょう。

東京社保協の総括・方針について

- 東京社保協49期のまとめ・50期活動方針は、資料とともに各組織宛に郵送しました。また、ホームページから取得することができます。ぜひ、ご意見や感想をお寄せ下さい。
- 東京社会保協のFacebookを開設しました。

社保協の行事予定について

- 中央社保協全国総会は、7月開催を延期し9月2日、ウェブ会議併用の予定となりました。
- 中央社保学校(8月に名古屋開催予定)は、1年後に延期となります。
- 宣伝・集会など工夫や規模を縮小しながらも実施されてきており、予定を随時お知らせします。

宇都宮都知事候補を推薦



コロナ禍は利益優先、社会保障削減、格差拡大を続けてきた社会・政治のあり方を根本から問うものとなっています。そうした中で行われる東京都知事選挙で宇都宮けんじ氏が出馬を表明しました。昨年からの活動してきた市民と野党の共闘実現で都政の転換をめざす「呼びかけ人会議」は、市民と野党の共闘の候補者として宇都宮氏を応援することを表明、東京社保協を構成する複数団体が加盟する「革新都政をつくる会」も推薦を決定しました。

そうした中で東京社保協も、6月25日開催の常任幹事会で「都民の命と健康を守る」「あらゆる貧困をなくす」などの公約を掲げる宇都宮氏を推薦すること、地域社保協にも推薦を呼びかけ、ともに社会保障の充実に奮闘することを確認しました。

「4の日」定例宣伝行動

巢鴨駅前 **実施を予定しますが、お問合せください。**

- ・7月14日(火)12時～13時
- ・8月14日(金)12時～13時

主催:東京社保協・中央社保協

「社会保障」をご購読ください



「資料と解説」が豊富で、激動する情勢や社会保障制度がよくわかる!役に立つ!学習や運動にぜひご購読を

- 定期購読(年6回) 3000円+税(送料別) 1部500円+税(送料別)
- 申込みは東京社保協へ TEL03-5395-3165 FAX03-3946-6823
- *ホームページからも注文できます